第１部　全国エリアマネジメントネットワーク

｜設立シンポジウム：エリアマネジメント発展への期待｜

コーディネーター：保井 美樹氏／法政大学　現代福祉学部　教授
パネリスト：白鳥　健志氏／札幌駅前通まちづくり株式会社
中嶋　利隆氏／NPO 法人大丸有エリアマネジメント協会
松本　栄二氏／森ビル株式会社
中尾　茂樹氏／三井不動産株式会社
藤井　修　氏／名古屋地区街づくり協議会
植松　宏之氏／梅田地区エリアマネジメント実践連絡会
本郷　譲　氏／博多まちづくり推進協議会
飯田　浩之氏／We Love 天神協議会
コメンテーター：中井　検裕氏／東京工業大学　環境・社会理工学院教授

（保井美樹氏　以下、保井）それではこれから今までの設立準備をともにしてきました、5 つの都市、8 地区の代表の皆様方とエリアマネジメントへの期待という事でセッションを行ってまいりたいと思います。

8 地区のエリアマネジメント団体・企業の皆様と、東京工業大学の中井先生をコメンテーターにお迎えして議論を進めてまいりたいと思います。

それぞれの団体・企業様がどのようにエリアマネジメントに取り組んで、何が実現しているのか。これをお聞きしたのちに、エリアマネジメントへの期待、そしてこのネットワークで何を行っていきたいかの抱負について議論が出来ればと思います。

ネットワーク設立準備会コアメンバーによる各地のエリアマネジメント取組み紹介

（白鳥健志氏　以下、白鳥）私共のエリアマネジメントは JR 札幌駅から大通公園までの約 600m、広さにして約 10ha を対象としています。

当地区は官公庁や銀行などが立ち並び、都市機能の中枢的な役割を果たしている反面、賑わいに欠けるという課題も有しております。また更新時期を迎えたビルが多数点在している事から、札幌市の顔としてふさわしい建物の立地や街並みの構築の誘導を行い、次世代につなげる必要があると考えています。

そのような中、私共は公共空間の活用とエリアマネジメント広告の事業を代表的な業務として行っております。公共空間においては札幌駅前通地下歩行空間に設けられた地下広場（以後チ・カ・ホ）や地上に設けられた札幌市北 3 条広場（以後アカプラ）があります。

チ・カ・ホは 95%の稼働率を有し、エリアマネジメント広告も通年高い稼働を示しており、そこから生み出される財源でお祭りをはじめとしたイベントやまちづくり講演会といった、

まちづくり事業を行っており、昨年度は50事業、額にして5,000万円を、まちづくり事業に充てることが出来ました。

（中嶋利隆氏　以下、中嶋）私からは 2 点の写真を準備いたしました。これは仲通りで行われたラジオ体操の風景であります。

仲通りは大丸有を貫通する幅21mの道路であり、5月ごろの新緑に包まれた心地よいこの時期に歩行者天国にしてラジオ体操の音楽を流す事で、通りすがりの人も思わず足を止め、体を動かすというシーンが仲通りで生まれました。

2枚目は打ち水の風景であります。今月の22日に開催されます、既に12年間、毎年この時期に1,000人以上の人が参加します。

誰もが参加できるイベントですが、企業ごとにお申込みいただいて就業時間中の 3 時 4 時くらいから浴衣に着替える姿が見られ、夕方一斉に打ち水を行った後、盆踊りを行います。

この仲通りの質の高い空間の活用と、打ち水にあるような企業と多くの人々の参加、この2つが大丸有のエリアマネジメントの特徴であります。

この発想から、ボランティアガイドが大丸有地区を案内するウォークガイドや、大丸有地区の企業チームが中心の野球大会も開催しています。

またこの仲通りの公的空間は憩いの空間としてだけではなく、イベントの開催やオープンカフェの空間活用といったように、幅を広げてまいります。またエリア防災の視点でも、企業単位で活動を束ねるような取り組みをしていこうと考えております。

（松本栄二氏　以下、松本）森ビルでは六本木ヒルズ、アークヒルズ、虎ノ門ヒルズ、の3つにおいてタウンマネジメント事業を展開しております。

タウンマネジメント事業は六本木ヒルズを作る過程で生まれ、400名の権利者が存在する再開発事業で用途も非常に多様です。まち全体をマネジメントしていかないとまちがバラバラになってしまう、あるいはまちのポテンシャルを引き出せないという問題意識のもと運営を見据えた権利返還を行い、複数の管理組合からなる協議会組織を立ち上げ、その協議会組織から統一管理者としての森ビルがまちの共用部の一体的な管理運営を受託する仕組みを作っています。

その仕組みに基づき、イベントスペースやタウンメディアを販売し、財源にすることで、まちのコンセプトに基づいたブランディング、コミュニケーション、イベント、プロモーション、まちとしてのサービス提供、コミュニティの形成などを行い、ブランド価値を高める取り組みを行っています。

本日イベントに関しては 3 点ご紹介いたします。イベントには集客型、あるいは文化発信型、コミュニティ形成型があると思っています。

特にコミュニティ形成に繋がるイベントを継続的に行う事を心掛けています。その一例

として六本木ヒルズでは、毎年夏に自治会と一緒に共催で盆踊りを開催しています。
　またアークヒルズもサントリーホール共催でかつ周辺の事業者様とともに、音楽週間という音楽イベントを行っています。
　虎ノ門ヒルズでは、春と秋にサンデーヨガというものを開催し、それぞれのヒルズの特性に合わせた賑わいの形成、運営を心掛けています。

（中尾茂樹氏　以下、中尾）私共は様々な所でエリアマネジメントに携わらせて頂いておりますので、こちらには会社単位で参加させて頂いております。
　窓口は開発企画部で行っておりますが、本日このシンポジウムには日比谷、日本橋、五反田などの様々なまちづくり担当の部署の人間が数多く参加させて頂いております。その中で我々が携わっているエリアをいくつかご紹介いたします。
　まず日本橋は、歴史と伝統文化を非常に大切にして活動しています。次に柏の葉スマートシティは、つくばエクスプレスの駅を中心とした大規模な複合開発を行っておりますが、複数の大学が近辺にある事もあり、環境共生・健康長寿・新産業創造をテーマに産官学連携で様々な取り組みを行っております。
　最後は東京ミッドタウンです。こちらでも様々な活動をしています。デザインやアート系のイベントにかなり力を入れています。このように各地域に応じて様々な活動を行っているのが三井不動産でございます。

（藤井修氏　以下、藤井）私共は道路の利活用で出た事業収益を社会に還元する仕組みを作るため、国土交通省より 2011 年と 2012 年に社会実験事業を受託しました。
　そして現在は民間の広告掲載料などを財源とした社会実験協議会を行政に参加頂いて運営しています。
　これまで実施してきた道路利活用社会実験は、バナー広告などの収益性の検証、また広告付き事業者案内板の事業性・景観・機能の検証、そして歩道の花壇整備・清掃活動などの公共還元であります。
　さらに 2014 年度からは公開空地の利活用を始めております。マルシェはビル事業者が経費をかけて実施をしておりますが、毎月定期的に実施する事で注目され、お問い合わせが増え、ビル事業者が公開空地の使用料を請求できるケースが昨年から出てきています。
　販売を伴う公開空地の使用については、私共のエリアマネジメント団体が名古屋市役所に申請するルールとなっており、やっとエリアマネジメント団体がビル事業者から手数料を頂ける環境が整ってきた段階でございます。
　今年度からは名古屋駅の開発で生まれた公共的空間の利活用をさらに進め、名駅地区にさらに相応しい魅力向上と公共還元の充実を一層図っていきたいと考え活動をしています。

（植松宏之氏　以下、植松）我々の実践連絡会は 2009 年の 11 月に設立されました。阪

急電鉄、阪神電気鉄道、JR 西日本、グランフロント大阪 TMO、この 4 つの事業者で成り立つ組織であります。

種々のプロジェクトを通して、実践連絡会イベントの活動、並びに情報発信を行う事により梅田地区全体の回遊性を高めることで、梅田の魅力を高めたい、ブランド価値を高めたいという思いがあります。

人に人格や品格があるように、我々この梅田にもまちの格というものを作っていきたいと考えています。

しかし梅田の街は道路と鉄道でまちが分断されているのが現状であり、20 世紀は都市をつくる時代であったという事が言えます、しかし 21 世紀は都市を育てる時代になっております。そういった時代背景の中で、エリアマネジメント活動というのは、道路とか鉄道である公共の部分と民間の公益の部分、共益と公益の 2 つの領域を活動するというのがエリアマネジメント活動だと思っております。

（本郷議氏　以下、本郷）まず博多というまちをご紹介いたします。空港まで地下鉄で 5 分、港までバス 14 分、天神までを含める 3km 圏内が福岡都心であり、都市世界ランキングでは 4 位にランクインしています。

寺社エリアをはじめ、流通、商業エリアも有し、住民の数も多い地区であります。平成 20 年に組織され、来年で 9 年目となります。

地域のまちづくりガイドラインを 2011 年と 2014 年に 2 度作成いたしました。現在の博多の状況は新幹線が走っており、立派な駅ビルも数棟建設されております。我々の活動において最も特徴的なものは「どんたく」です。5 月の 3,4 日、220 万人を集め、警察と協力しながら運営を行っております。

（飯田浩之氏　以下、飯田）私達、We Love 天神協議会は今年の 4 月に設立からちょうど 10 年を迎えた、福岡市の天神地区で活動するエリアマネジメント団体でございます。

これまで 10 年間様々な事業を実施してきましたけれども、現在は公共空間における賑わいプロデュース、つまり多くの多様な方々にまちに来てもらう為の、年間を通した集客事業を行っております。

併せて、安全・安心なための活動、及び交通の在り方についての活動の取組を行っています。公共空間の賑わいづくりの活動の中でも象徴的な事業である、歩行者天国ですが、一昨年に福岡市によって認定された国家戦略特区の特区メニューの 1 つです。

道路占用事業の 1 つとして、全国の中でも特区第 1 号事業として、開催させて頂いております。その後も定期的に開催をさせて頂いており、行政とともにまちの賑わいづくりに取り組んでいる次第でございます。

これまでは定期的に年間 2 回の開催をしてきましたが、今後は開催頻度を高め、将来的には恒常化、毎週末が歩行者天国になっているという未来の為に実績作りを行っています。

こうした事業を通して歩いて楽しいまちづくりという目標像に取り組んで参りたいと考えています。

（保井）ありがとうございました。それぞれの地区の特徴的な活動を通じて、これまでのエリアマネジメントという活動の大枠がおぼろげに見えてきたのではないかと思います。

このようなエリアマネジメントの取り組みをどのようにとらえて、あるいはどのように期待されているのかを中井先生の方からワンポイント講義という形でお話を賜りたいと思います。

各地域の特色を活かした多種・多様なエリアマネジメント活動の共通点とは

（中井検裕氏　以下、中井）それぞれの地区で特徴的な活動をお話しいただきましたが、非常に多様・多彩であります。しかしながら、いくつかの共通する点がございます。

1つは目的に関する点で、特定の個人や企業の利益を目的としないという点です。巡り巡って利益が戻ってくる事はあるかもしれませんが、直接的に特定の主体の利益を目的としたものではありません。

ここが互酬性というものに繋がってくるのではないかと思います。地域の環境や地域の価値の向上を目的としている点。経済学では正の外部性と言います。市場を通さないで、周囲の人に良い影響を与える事、これが地価に帰着すると地域の価値が向上するという事だと思います。

2番目の共通する点は、合意形成の点なのではないかと思います。多数の主体を取り込みながら、様々な活動を展開されています。最初は少数の、1つの企業や団体であったものを拡大していく為には、信頼関係をどのように醸成していくのかという点で、ご登壇者の皆様は困難を抱えつつも、ここまでご活躍されているのではないかと考えています。

それから 3 番目は自主性という点です。誰かに言われて始めたものではなく、自発的に始めたものであるという事。そのために、それぞれが個性的であり、地域ごとの特徴が表れている点が、エリアマネジメントの特徴なのかなと思っています。

エリアマネジメントの意義ですけれども、民が中心になって行うという事が最大の特徴であると考えております。民だからこそできる事という観点で、4つほど上げさせていただきます。

1つ目は同じことを行うにしても効率よく行う事が出来るという事。最近では民間に効率性を求めながら、本来は行政が提供していたサービスを民が代わりに行うといった事は他の地域でも行われています。そのため、エリアマネジメントの特徴の1つではありますが、これだけが特徴ではありません。

2つ目が公平の原則からの解放という点であります。民だからこそメリハリがきっちりつけられる場合があります。公共においては納税者という存在があるのでそれを大きく大胆に突破する事は難しい。それについて切り込みを入れられる事が、民の良い所かなと思い

ます。
　3つ目は、主体・活動・空間を繋ぐという事で、官、民、市民団体や外部の専門家といった方々を柔軟に繋ぎ、活動においても維持管理活動からプロモーション活動をシームレスに繋ぎ、公共空間から私的空間も繋いでいけるといった、行政が苦手な所も行う事が出来るのが、民ならではだと思います。
　最後はきめ細やかな対応ですが、これは比較的小さなところを対象としているので、きめ細やかな対応が出来るのではないかと考えております。
　今後への期待ですが、日本は農村社会・水田社会でありました。その中には、水の管理や田植えは共同で作業・管理するという前近代型の commons という考え方がありました。私はエリアマネジメントというのは現代の commons だと考えています。
　そしてこういう協働をこなす事により、生活の質を最大限に上げるためのシステムだと理解し、非常に期待しております。

（保井）ありがとうございました。民だから出来ること、これは行政の補完ではなく現代の commons という言葉が印象的でした。現代まで存在しなかった新しい分野を切り開く、企業とも個人とも異なる新しい民の担い手、あるいは地域運営のシステムを育てているという自負を持ってもよいのかなと思いました。

先進的なエリアマネジメント実践者が語る今後のエリアマネジメントへの期待とは

（保井）次にエリアマネジメントの実践者の皆様から今後のエリアマネジメントへの期待をお聞きしていきたいと思います。

（白鳥）エリアマネジメントを実務として行っている者として、今後のエリアマネジメントへの期待を述べていきたいと思います。
　今後のエリアマネジメントへの期待は、まちの状況に適したまちづくりを組織的・総合的かつ継続的に行う事が可能だと思い、この継続という点が今まで難しかったと考えております。
　人材の育成や、地域資源の創出を行いながら、行政と民間が共同でまちを育むという事が重要になると考えております。
　ただ課題は財源の確保です。私共は広場の活用により財源を見出しておりますが、小さなまちや過疎化に悩んでいるまちの財源の確保を、諸外国の BID などを検討して実現を図ることが出来ればと考えています。

（中嶋）大丸有地区の地域資源は、仲通りのような質の高い空間の集積と打ち水にみられる企業や人々の集積であります。
　エリアマネジメントが地域資源を引き出していくという意味で、今後のエリアマネジメ

ントへの期待のキーワードを「地域資源」という事にしました。
　企業や人材もイベントに参加する事で大きな力を発揮する事があります。祭りのような場で盛り上げてくれる人も出てきますし、業務マッチングなどのビジネスを拡大する場において新たな出会いのもとイノベーションを創出される方も多くいおられます。
　美術館や道路も国際会議の会場となります。実際、三菱地所の三菱一号館美術館を会場にして行った国際会議は好評でしたし、ねぶたが登場するような大きなレセプションを開催したこともあります。このような使い方をすれば、地域の道路や美術館は地域の新たな資産になるという事であります。
　これまで都市の魅力を支えるのは、行政と民間が中心でありましたが、これからはエリアが主役でございます。地域資源の価値を最もよく知っていて、関係者と深い関係にあるのはこのエリアマネジメント団体ではないかと思います。
　エリアマネジメント団体が、地域の頭脳となり手足となる事が期待されます。この地域代表になるには実績を積むことも大切ですし、土地の魅力を引き出すのにも時間がかかるので、人材を含め将来へ向けた安定性が大切であります。
　エリアマネジメント団体としてこの地域資源の課題に取り組み、新たな地域の担い手に育っていく、あるいは育てられていくという事を期待しています。

（松本）先ほど申し上げた六本木ヒルズから生まれたタウンマネジメントという仕組みを今後は周辺の方々との連携を深め、また都市を育む仕組みを作れていければと考えています。
　周辺との連携という意味合いにおいては、六本木周辺の商店街の方々と六本木アートナイトというイベントを開催し、また六本木駅周辺では治安改善といった取り組みも行っております。
　アークヒルズでは周辺で再開発が進んでいる中で、周辺のデベロッパーとともに地域の魅力を紹介するエリアガイドを作成し、虎ノ門ヒルズでは現在エリアマネジメント団体が発足しているので、そちらに森ビルとして関わり・連携していく事が我々のエリアマネジメントだと考えております。
　イベントやプロモーションも大切ですが、よりエリアとして考えた時、環境問題やエリアのセキュリティー、物流の在り方といった都市のインフラ・サービスをエリアの観点でどのように取り組んでいくのかが今後のエリアマネジメントで重要となっていくと考えております。

（中尾）「標準仕様とオーダーメイド」という言葉を選ばせて頂きました。エリアマネジメント業務は最近、社内でも様々な場所で行っており、合理的・効率的に行うために標準化・提携という話は出てきています。
　しかし実際の現場の意識はオーダーメイドであります。それぞれの地域の経緯や特性、

地元の方の声に合わせてエリアマネジメントに取り組んでいくのが当たり前だという意識があります。

そのため、部署間で情報共有・意見交換といった機会すらとる事は難しい。そういった会社内の意思疎通の難しさとは裏腹に、この全国エリアマネジメントネットワークでは、そういった意思疎通の壁を地理的な壁さえも超え、しっかりと情報共有し、地域ごとのオリジナリティーが基本の中で、何らかの共通のソリューションを生み出そうとしているのは素晴らしいと思っています。

全国エリアマネジメントネットワークが設立され、「エリマネ」という言葉がより一般的になっていくと、今後必ず良いアウトプットが出てくるのではないかと期待しております。

（藤井）私共は任意団体ですので、都市再生推進法人のできる整備計画の提案や利便増進協定の締結はできません。しかし、そのような法人組織でなくても、身近なところで「新しい公共」や「共助社会」を実現する組織として、制度的にエリアマネジメント団体が位置付けられるのであれば、プラスの社会的インパクトをより大きなものにすることができると考えております。

しかしそのためには、エリアの魅力を向上させるための公益的事業をどのように選定すればよいのか、次に公益性を可視化する方法はどのようなものがあるのか、という問題を乗り越えて社会的認知度を高める必要があります。

そして、組織形態に関わらず、行政と合意したエリアマネジメント活動が広く展開されるのであれば、全国のまちにプラスの効果を与えられるのではないかと期待しております。

（植松）我々のエリアマネジメントへの期待は公共空間を徹底的に使い倒すというものでございます。手法としては空港のコンセッション、病院の PFI、大阪城の指定管理者になる等の、公共のものを民が取り組んでいくという事だと思います。

我々のように新たな公共の立場でありますエリアマネジメントが徹底的に公共の空間を使っていく事が、まちの活性化に繋がっていくと考えてります。

（本郷）「駅からまちへ、まちから駅へ、歩いて楽しいまちづくり」、我々の一番のコンセプトは歩いて楽しいというものです。

まちの魅力は 3 つあります。1 つは安心・安全、2 つは、歩いて楽しいという事、3 つは、食の楽しみ。KITTE 博多や博多ビル等々を二階のデッキと地下通路で繋いでいます。

これにより、雨にぬれずに歩いて行けます。また、博多駅前通りを 5 車線から 3 車線にし、自転車道路並びに歩道を広げ、そのまま中洲経由、天神まで広がっていく、歩いて豊かな気分になるという点に注力することが、博多全体の魅力の向上に繋がっていくと考えております。

（飯田）私の方からは、全国エリアマネジメントネットワークへの期待をお話しさせて頂こうと思います。

エリアマネジメントを進めていくにあたり我々の最大の課題は、財源の確保と拡大であると考えております。このエリアマネジメントネットワークの場で、他の事例などを参考に勉強させて頂きたいと思っています。

具体的には、公共空間の利活用に伴う、まちの賑わいづくりに合わせた財源確保が中心になると考えていますし、そのためには様々な規制緩和も必要になると考えていますので、その勉強もさせて頂きたいと考えております。

また BID 等の将来的な、エリアマネジメントの体制や仕組みづくりの在り方についてもこのエリアマネジメントネットワークの場で勉強できればと考えております。

（保井）ありがとうございました。多様なエリアマネジメントへの期待がありましたが、お聞きしていますと地域資源というお話が出ましたが、ローカルな地域資源をいかに使って財源を生み出すのか、また地域資源を使う事が地域での生活を豊かにし、地域の価値を高め、そして持続的な地域運営に繋がるという事が見えてきたと思います。

今の期待を受けまして中井先生の方からコメントを頂こうと思います。

地域でエリアマネジメントが発展していくために重要なことは「担い手の育成」と「獲得」

（中井）エリアマネジメントへの期待という事ですが、１つにはエリアマネジメントのお金の話や仕組みの話等、継続性・持続性という事を中心にお話になられていると思い聞いておりました。

また半数の方は、これから進むエリアマネジメントの未来についてお話しされていたのかなと思います。

しかし、いずれに共通することはエリアマネジメントを担う人材をそれぞれの組織でどのように育てていくのか、あるいは新しい地域で獲得していく事が大事なのかなと思って聞いております。

もちろんお金や仕組みも大事ですが、人がいないとどうしてもうまくいかないのではないかと考えております。とりわけ信頼や互酬性といった世界では、その人の全人格的な事がものを言うので、その人たちの専門知識をエリアマネジメントでどのように活かし、豊かにしていくのかが、地域でエリアマネジメントが発展していく為に非常に重要であります。

こういったネットワークが完成したことを受けて、私の方から 1 つご提案をさせて頂きます。例えばこのネットワークの中で若手の留学制度を作ってみてはどうかと思います。

ある地域のエリマネの若手が、他の地域に 3 カ月や 6 カ月いて、様々なことを学んでくるというのは、ネットワークならではの事なのではないでしょうか、

もちろん、所属組織の垣根を越えてという事になりますが。もう 1 つは、人材提供という意味では大学とも上手に連携をとって頂けないかな、という事です。大学はお金や仕組みづくりに関するお手伝いは出来ませんが、人材に関しては、大学は役割を果たしうるので、ぜひそれぞれの地域の大学と連携を深め、多種多様な女性や外国人といったところに目を深めながら、エリアマネジメントを担う人を豊かにしていく事が、エリアマネジメントそのものを豊かにしていく事にもつながっていくのかなと思って聞いておりました。

（保井）ありがとうございました。最後は全国エリアマネジメントネットワークの設立準備委員会のコアメンバーとしてご活躍されてきたメンバーであり、今後も中心メンバーとしてご活躍されていく皆さまが、今後どのような事を実現したいのか、先程中井先生の方からも留学制度という具体的なご提案を頂きましたが、そういったアイデアを含めて抱負を語って頂ければと思います。

エリアマネジメントネットワークへの期待と抱負

（白鳥）「ネットワーク」をきっかけに、よりよい情報交換の実現をする事が最も即効性があると思っています。

本日、設立された全国エリアマネジメントネットワーク設立の為に、我々も数年間、検討してまいりましたが、その間に全国エリアマネジメントネットワークの事務局でご活躍されている女子が結束を図られました。

その名も、「エリマネ最強女子会」。彼女たちは、気軽に情報交換を行っておりますが、その中には、エリアマネジメントの知りたい情報やノウハウがたくさん詰まっています。明日からでもその貸し出しが出来るのではないかと考えております。こういった機会が実現できるように頑張りたいと思います。

（中嶋）私の方からは、「協調・協力、そして競争」と上げさせていただきました。道路空間の規制緩和や権限の拡充、あるいは税制の優遇という各団体に共通した問題がある事が分りましたし、こういった問題には協調した取り組みが効果的だと思います。

各地域が連携してエリアマネジメントを広いエリアで開催するという事もあるかもしれません。これには協力して取り組むという事が必要かもしれません。これには東京都が地域の個性やポテンシャルを最大限発揮し、競いながら地域の新たな価値を創造する、と宣言しています。

エリアマネジメントの役割はここにあると考えていて、他の地域の存在を励みにし、競争しながら取り組んでいく事が大切であると考えております。全国レベルの情報を共有する全国エリアマネジメントネットワークが設立されたので、協力・競争に励んでいきたいと思います。

（松本）全国エリアマネジメントネットワークを通しての効果検証、エリアマネジメントの有用性を可視化できると良いと思います。

今までは再開発という枠組みの中で、ステークホルダーの人と共に作っていくため、ある意味での仲間と活動してきました。

しかし、ヒルズ周辺の方々と協力して事業を興し、様々な温度差の中で、地域の価値向上という事を行っていく事は、なぜやるのかといった地域の合意形成の仕方や財源の問題、担い手といった問題が必ず課題として出てくるので、この全国エリアマネジメントネットワークを通じて効果を可視化することが出来れば、また一つ都市づくりが変わっていくのかなと期待をしております。

（中尾）「実践知の確立」という言葉を使っています。当社は様々な所でエリアマネジメントに携わっているので、会社全体としての実践経験は多いと思っております。

我々は準備段階での貢献が足りなかったので、これからはエリアマネジメントに関する実践ネタをどんどん出していく事によって、全国エリアマネジメントネットワークの知識の部分に貢献していきたいと考えていると同時に、我々としても方法論のようなものを確立していきたいと考えております。

（藤井）全国共通の課題は、全国エリアマネジメントネットワークの力をお借りして達成していきたいと考えていますが、名古屋駅地区の課題は行政と連携を図り、これからも我々が解決していかなければならないと考えています。

しかし、名古屋においてはこれだけでは不十分です。名古屋市役所はエリアによって所管する課が分れており、道路の社会実験、都市交通の在り方などに関する情報が、エリアマネジメント団体の間で共有できていません。

したがって出来るだけ早く名古屋のエリアマネジメント団体のネットワークづくりを行っていきたいと思います。

また、安全確保計画や水害タイムラインなどに参画しているエリアマネジメント団体は多くないと思いますが、私どもはそれだけでなく道路下の街きょ桝に浸水センサーを設置し、冠水警報メールを会員に自動送信するシステムを持っています。

これは昨年から実験段階にありますが、もしうまくいきましたらあらためてご報告させていただきたいと思います。

（植松）この全国エリアマネジメントネットワークにはエリアマネジメント組織の方、企業の方が 45 団体入って頂きありがたい限りと考えております。

また大阪市を含め、行政の方にも 18 団体入って頂いております。我々の地区のエリアマネジメントというのは自分の地区と仕事に誇りを持っています。

また、まちの事は我々に聞いてもらいたいというほど、愛着を持っています。準備会の

ネットワーキングで様々な活動をしますと、エリマネを行っている方々は非常に朗らかで、楽しく取り組んでいる方々が多いのではないのかと思っています。

まさしくそのような愛着のある土地が 45 地区も一緒になって取り組んでいけば、日本も元気になることは目に見えていると期待しています。

しかしながら活動を続けていくと活動の質をより高め、幅を広げたいという思いがより高まってくるのではないかと思います。となればますます、財源が必要となるので、政府の方々には都市再生事業で増えていく税収を地域に還元できるような仕組みを作って頂ければありがたいと考えております。

（本郷）「九州・博多から元気を発信」と期待しております。我々のまちづくりを英語に直すと、community enhancement and vitalization という言葉になります。

そして我々はこういった活動を九州のみならず、全国に広げていってはどうであろうかと考えております。

熊本の震災などありましたが、九州博多・天神などは最もアジアに近い活気あるまちとして、全国エリアマネジメントネットワークを通してアピールしていきたいと考えております。

（飯田）この全国エリアマネジメントネットワーク協議会の設立に合わせて、福岡では我々と、博多まちづくり推進協議会、福岡市とともに、3 社で福岡エリマネ会議というものを発足させております。

この全国の場でのエリマネの勉強や研究の成果をローカルの福岡エリマネ会議の中で、具現化し実践していきたいと考えております。

全国とローカルで具体的な形にしていく福岡モデルというものを考えております。抱負といたしましては、研究で終わらず問題解決について、具現化し実践するという実効性をもって取り組んでいきたいと考えております。

（保井）ありがとうございました。エリアマネジメントは確立された理論も手法もありません。既存の枠組みの中でどのように活動していき、また必要とならば法制度、人々の価値観の転換さえも促しながら、様々な実践を進めているという分野でございます。

それをもとに、これからビジョンが作り上げられていくという意味合いにおいては、まちづくりの中で最も最先端の分野であると考えております。

全国エリアマネジメントネットワークには 2 つの役割が存在しています。社会関係資本の結束型、橋渡し型の 2 つに繋がっていくのかなと思います。

しかしこれを実践していく事は難しいので、まずはエリアマネジメントの活動が達成された時の喜びをまずは共有し、仕事に対する誇りと前に進める力をもう一度得られるという場を提供したいなと思いました。